



## 協同組合のアイデンティティをめぐるとの主な動き

2025	国際協同組合年 IYC2025
2016	「協同組合の思想と実践」がユネスコ無形文化遺産に登録
2012	国際協同組合年 IYC2012
2002	国際労働機関 ILO193号勧告「協同組合の振興」
2001	国連「協同組合の発展を支援する環境づくりに関するガイドライン」
1995	「協同組合のアイデンティティに関するICA声明」を採択 第31回 ICA世界大会（マンチェスター）
1966	協同組合原則を改定／第23回 ICA世界大会（ウイーン）
1937	協同組合原則を採択／第15回 ICA世界大会（パリ）
1895	国際協同組合同盟（ICA）設立（ロンドン）
1860	ロッヂデール組合がルールブックに原則を揭示
1844	ロッヂデール組合設立



## JCA「協同組合アイデンティティに関する提言」

（概要）（2024年3月）

1. 地域社会への関与を協同組合の目的として「定義」のなかに記載すること
2. 組合員参加に関する記述を充実させること
3. 職員を協同組合の担い手として位置づけること
4. 協同組合を越えた協同を規定すること
5. 平和・非暴力に言及すること
6. 環境に言及すること
7. 広報に関する記述を充実させること
8. その他の改定に関すること

詳しくは



## （3）持続可能な社会の実現に向けた取り組みを学習する

2回目の国際協同組合年を宣言した2023年10月の国連決議では、協同組合の、持続可能な開発目標（SDGs）の達成に向けた貢献が高く評価されています。

と言われると、皆さんの中には、「SDGsなんて活動するうえで考えたこともないよ」あるいは「自分たちは評価されるほどのことはやっていないよ」と戸惑われる方もいらっしゃるかもしれません。

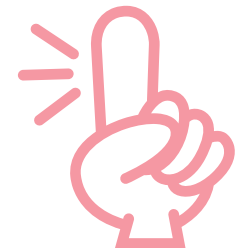
でも、例えば、持続可能な食料生産や消費、安心して住み続けられる地域社会づくり、働く場づくり、健康や福祉の向上、思想信条や老若男女を問わず誰でも参加できる事業や活動の場づくり、省資源・リサイクル活動などはどうでしょうか。

皆さんの協同組合でも、持続可能な開発目標（SDGs）の実現に貢献できる事業や活動に何かしら取り組まれているのではないのでしょうか。

IYC2025を好機として、持続可能な開発目標（SDGs）について、持続可能な社会とはどのようなものか、何が目標とされているか学びましょう。そして、皆さんの協同組合の取り組みについてそうした観点から改めて振り返ってみましょう。



# 2 実践する



協同組合のアイデンティティは、皆さんの事業や活動の中で活かされていますか？ また、どうしたら活かせるでしょうか？

皆さん自身が満足のもの、自信を持ってPRしたり、参加を誘ったりすることができるものとなっているのでしょうか？

学びや振り返りの中から、改めて課題が浮き彫りになってくることと思います。

では、次のアクションについて、みんなで話し合い、できることから始めてみませんか。

他の協同組合や企業・団体とつながり、事業や活動を学んだり、一緒に活動したりするのもいいですね。IYC2025はみんながつながり、協同の輪を広げ、実践するチャンスのある年なのです。



協同組合間の連携事例



協同組合のSDGs取り組み事例

こうして学んだこと、実践していること、実践したいことを広く発信しましょう。

発信することで、協同組合のことを広く知ってもらい、共感や信頼につなげ、協同組合の組合員として、事業を利用する人、活動に参加する人が大きく広がる可能性があります。

JCAの「協同組合に関する全国意識調査2022」では、協同組合の組合員はSDGsへの関心が高く、組合員が増えることで社会を変えていく可能性を秘めています。

／協同をひろげて、日本を変えていきましょう。／



# 3 発信する

